

春の訪れとともに海技大学校の桜も咲く頃を迎えています。

私は、海技大学校長の近藤と申します。102名の入学生の皆さん、ようこそ海技大学校へ。本日ここに、令和5年度海技大学校春季入学式を挙げていきますことは、本校にとりまして大きな喜びであり、教職員を代表し一言お祝いを申し上げます。

本日は、その教育内容、修学期間、年齢などが異なる5つのコースが入学式を迎えたこととなります。海上技術コース（専修）（専攻）、海技士コース（四級）（五級）、水先コース（一級）の皆さん、入学おめでとうございます。保護者の皆様におかれましてもご臨席を賜り感謝申し上げますとともに、お祝いを申し上げます。

海上技術コース（専修17期生）の皆さん、

海上技術短期大学校で修得した四級海技士課程を基礎として、修業期間2年の三級海技士養成課程が始まります。諸君にとって座学、実習、乗船訓練などを組み合わせた2年間は長いようで短いものだと思います。自分の目指す目標に向かって力を尽くすとともに、その目標が達成されるよう努めていただきたいと思います。

海上技術コース（専攻18期生）の皆さん、

大学あるいは大学院で修得した知識を基礎として、航海専攻は三級海技士（航海）、機関専攻は三級海技士（機関）の資格取得を目指して、本日より修業期間2年の三級海技士養成課程が始まります。諸君におかれましては、通信教育、座学、実習、乗船訓練などを通じて、航海士、機関士となるために必要な基礎を身に付けてください。

海技士コース（四級）（五級）の皆さん、

現場で培った知識、技術を基礎として修業期間2.5か月の四級海技士課程及び五級海技士課程が始まります。諸君は日々船員として業務に従事する中で、更に上級の海技免許を取得するために本校に入学してきました。目標達成のための毎日8時間に及ぶ授業・実習の連続はつらいことと思われませんが、目的達成に努めてください。

水先コース（一級・17期生）の皆さん、

本日より、養成期間9か月の一級水先人養成課程が始まります。前半の約4ヶ月は水先区共通教育として海技大学校にて座学・操船シミュレータ訓練等を履修し、後半の約5か月は水先区個別教育として各水先区の水

先現場における実践・実務的な訓練を履修することになります。本校の水先教育センター長をはじめとする優秀な現役水先人から様々な知識を吸収し、水先人としての基礎を修得されることを期待しております。

海技大学校は、勉学環境に恵まれた国際文化住宅都市である芦屋市に位置しています。北側には六甲山を仰ぎ見て、南側には茅渚の海と呼ばれる大阪湾を眺望できます。周囲の美しい風景を楽しみながら、本校での学校生活に励んでいただきたいと思います。

他方、新型コロナウイルス感染状況は未だ行方定まらぬ状況ではありますが、昨年度末より対処方針が大きく変わろうとしています。海技大学校においては引き続き校内ガイドラインに基づく感染対策を行い安心安全な授業、実習等を展開してまいります。体調が何かおかしいな？と感じましたら情報の共有に努めていただくようお願いいたします。

最近では、DX（デジタルトランスフォーメーション）、CN（カーボンニュートラル）、GX（グリーントランスフォーメーション）あるいは自動運航船という言葉が頻りに耳にします。また、近い将来、新しい技術の導入が更に進み無人運航船、遠隔操縦船が世界の海を航海し、推進プラントで使用する燃料は、重油、LNGを経て水素、アンモニア燃料に代わる日も、も

はや夢物語では無いのかも知れません。しかしながら、どんなに技術が発達し、船員を取り巻く環境がいくら変化しようとも、船員あるいは水先人の知識・技術は船舶運航に必要不可欠です。共通の目標は国家試験合格です、目指す免許の取得に力を尽くしてください。教職員は皆さんを全力でサポートいたします。

この後静聴する「海技大学校・校歌」は、創立16周年となる昭和36年、「海技大学校への名称変更」を記念し発表されたものであり、時代に合わせるべく平成31年に編曲していますが、「茅渚の潮～」で始まる歌詞は当時のままですので、当時からの変わらぬ想いをこの機会にご確認ください。

最後になりますが、本校での修学期間、健康には十分に留意するとともに、苦しい中にこそ喜びがあることを忘れず、皆様のチャレンジ精神に敬意を表し、自分を信じ、自分で判断し、自分のためにご尽力されることを祈願し、本日の式辞とさせていただきます。

令和5年4月5日

独立行政法人海技教育機構 海技大学校長 近藤宏一